

天沼小だより

文責

校長 大里 忠弘



ご褒美(ごほうび)はやる気を奪う!?

「役に立ちたい」「達成したい」などという動機で、子どもが自発的にやっていたことでも、ご褒美や報酬を受け取ることで、やらされ感が増し、ご褒美がもらえないとやる気を失ってしまうことがあります。

頑張っている人にご褒美をあげることで、逆にその頑張りが続かなくなってしまうことがあると証明した心理学者がいました。エドワード・デシやマーク・レPPERは、共にアメリカの学者ですが、このことを検証する実験を行っています。



エドワード・デシの実験

○面白いパズルをたくさん用意し、パズル好きな大学生を集めて解かせる実験を3日間実施

○大学生は A B 2つのグループに分けられる

○1日目：両グループとも、好奇心のおもむくまま、好きにパズルを解く

○2日目：Aグループには、パズルが一つ解ける度に金銭報酬が与えられる

Bグループは、前日同様、好きにパズルを解く

○3日目：両グループとも、好きにパズルを解く

つまり、Bグループは3日間とも、ひたすら好きにパズルを解くだけだったのに対して、Aグループの大学生は、2日目に金銭報酬を受け取るという経験をした。

検証した内容

3日間とも、合間に休憩時間を取り、実験スタッフが8分間席を外した。大学生はその間、何をしていたとしても良いと告げられた。休憩時間に、大学生が自発的にパズルを解き続けるかどうかを検証した。

実験の結果

Aグループのみ、3日目にパズル解きへの意欲の低下が見られた。

集められた大学生は皆、元々パズル好きで、パズルを解くこと自体に喜びを感じ、パズルを解くことが目的で集まっていた。内発的に動機づけられた行動をしていた。ところが、Aグループの大学生は、2日目にパズルが解けたらお金をもらえたという経験をしたことで、パズルを解くことがお金をもらうための手段となった。パズルを解くという行動が、内発的に動機づけられたものから、外発的に動機づけられた行動へと質を変えてしまった。それゆえに、お金をもらえなくなると、パズルを解くという行動が少なくなったというのである。

マーク・レPPERの実験

○日頃から絵を描くことが好きな幼児を集めて、お絵かきの実験を行う

○幼児は3つのグループに分けられる

A：ご褒美予期組 上手に絵が描けたらご褒美をあげると言われ、結果全員がもらえる

B：ご褒美なし組 絵を描きましょうねと言われ、絵を描いて遊んだ

C：予期せぬご褒美組 ご褒美のことは言われず、絵を描いて遊んだ後、思いがけずご褒美をもらう

○お絵かき遊びの後、7から14日後に自由遊び時間の幼児の行動を観察する

実験の結果

Aのご褒美予期組のみ、他の2組に比べて明らかに絵かきに費やす時間が少なかった。
絵かきが褒美をもらうための手段となり、内発的に動機づけられていた絵かきが、外発的に動機づけられた行動へと質を変えてしまったと考えられるということです。
レッパーの実験で大切なのは、褒美をもらうことが問題だというのではなく、褒美という外的な報酬を意識することが問題だということです。実験のC：予期せぬ褒美組のように、結果的に褒美をもらっても、行動をしているときにそれを意識していなければ、やらされ感は生まれず、内発的動機づけは低下しないのです。

勉強も同じで、わからなかったことが分かるようになる。それがワクワクする体験なのに、テストで良い点を取ることが目的になったり、何か褒美をもらうなどの外的報酬のために勉強を頑張ったりする経験を重ねることで、元々の勉強の楽しみを見失い、やらされ感満載の苦行になってしまい、勉強嫌いが生まれてしまうというメカニズムがここにあるのです。
子どもが主体的に学習するには、良い成績のためとか、ほめられるためとか、褒美のためとかではなく、勉強そのものの楽しさや知的好奇心を刺激するような学習を体験させることが大切なのです。

教室では、一緒に学習している子どもの声や表情の中に、「わかった」「できた」「なるほど」「そうだったのか」「ふしぎだな」「どうしてだろう」「なぜだろう」「やっぱり」「また、やりたい」「やってみよう」といった、勉強そのものを楽しむ表現を引き出すよう、先生たちも努めています。

パズルは解くこと自体が楽しい。プラモデルもできあがった完成品の出来映えがどうかというより、プラモデルを組み立てている時間が充実していることが大切なのです。
時に私たちは子どもに語ってしまいます。「この勉強は、〇〇の役に立つことだ」「しっかり勉強しておかないと、将来の就職に困るよ」などと。
学ぶことが、何かの目的達成のための手段となってしまうことで、学ぶことそのものに喜びを感じることはできなくなってしまうのです。

「好きなことをして食べていけたらいいな」ということが言われることがあります。実はこれも、報酬が伴うと普通に仕事になってしまうのかも知れません。あるYouTuberが、「自分たちは遊んでいて報酬をもらっているかと思っているかもしれないが、結構大変なんだよ」とどこかに書いていました。
毎回ネタを考え、撮影し、編集するというのは結構大変な作業です。再生数が上がった、下がったと一喜一憂する。報酬とやることが結びつくと、楽しみは苦しみに変わってしまうのかも知れません。

もし、「テストで100点取ったらお小遣いをあげる」などのご褒美をお考えのお父さん、お母さんがいまいたら、要注意です。

